

～～～～～～～～～～～～～～～～

ニュース JAFIC EYE No.1 29

2019 年3月 銚子駐在所報告

～～～～～～～～～～～～～～～～

1. 一艘まき網の漁況について

2 月末はサバ漁が低調であり、イワシ漁が主体で行われていたが、3 月はサバを一網 20～100 トン漁獲する船やイワシを一網 40～280 トン漁獲する船があり、サバイワシ混じりの漁況であった。3 月初旬は二艘まきがサバ主体の漁獲となったこともあり、一艘まきもサバが期待されたが、時化が続いた。中旬はイワシを一網 20～340 トンの漁獲があり、臨時休漁が 3 回行われた。下旬は船体整備のためドック入りする船もあったが、16～17 ヶ続がイワシを一網 30～390 トン漁獲した。銚子港では 3000～5000 トンの水揚げが続き、臨時休漁が 3 回行われた。

漁獲量が多く、魚価が安価となったため、一艘まき、二艘まきともに 1 回操業となった。

2. 二艘まき網の漁況について

上旬はサバ・イワシ混じりの漁獲であった。犬吠埼南沖ではサバ群を発見し、一網 72～146 トンの漁獲があった。中旬の前半は犬吠埼南沖でサバを一網 30～200 トンの漁獲。後半はサバ群が発見されず、イワシを一網 20～200 トンの漁獲。下旬は犬吠埼南沖～東沖でイワシを一網 30～170 トンの漁獲。犬吠沖のイワシ群は大群で広範囲に分布しており、サバ群も良好であった。

3. サバについて

上旬は一艘まきで一網 20～100 トン、二艘まきで 72～147 トンの漁獲があった。中旬は二艘まきが一網 30～210 トンの漁獲となった。サバの魚群が千葉県海面が中心であった。魚体は 180～750 g、200～300 g 中心、400 g 以上が 1～10% 混じり、200 g 台が 60～70% の魚体組成であった。

魚価は 50～125 円、平均 101.2～105.3 円で推移していた。

中部海区で漁獲されたサバが銚子港に運ばれ、1 日 1～5 隻で計 23 隻水揚げがあった。魚体は 180 g～1.1Kg、300 g 中心及び 350 g 前後中心、400 g 以上が 5～30% であった。魚価は 66～130 円、平均 68～112 円で推移していました。

4. イワシについて

上旬は一艘まきが川尻沖で一網 40～280 トン、一の島北沖で一網 20～185 トン漁獲されたが、その後時化が続いた。中旬は一艘まきが茨城海面で一網 50～280 トン、二艘まきが犬吠埼東沖で一網 20～200 トン漁獲した。下旬は一艘まきが高萩沖～犬吠埼南西沖で一網 30～390 トン、二艘まきが一の島南沖～犬吠埼南西沖で一網 50～200 トン漁獲があった。魚体は 30～150 g、40～60 g 中心で、70 g 以上は 5～25%、50～80 g 中心で 100 g 以上 5～30% の魚体組成であった。漁場は大津～大洗、鹿島～一の島、一の島～犬吠沖と 3 か所に形成された。北側海域よりも南側海域で 100 g 以上の個体が見られた。主にマイワシは輸出の缶詰原料、延縄漁の餌、国内の加工原料に活用されていた。

5. 底曳船の漁況について

底曳船は鹿島沖でヤリイカ漁が主体で操業した。では鯛、スズキ中心の操業であった。ヤリイカ漁の上旬～中旬は一の島北～東沖にかけて、各船とも 20～90 本（丸）の順調な漁獲であったが、下旬は 10～50 本（丸）の漁獲量であり、低調に推移し、船団差も大きくなった。ヤリイカの魚体は大半が小であり、大、中が少なかった。ヤリイカ（大）の魚価は上旬～中旬は平均 1506～1792 円であったが、下旬は漁模様が低調であったため、2019～2996 円と高価であった。

6. 曳縄船について

地元船はサワラ漁中心に外川沖で操業し、1～10 尾の漁獲で極低調な漁模様であった。また、房総沖でカツオ・ビ

ンナガ込み 150～400Kg の漁獲もあった。鹿島船は上旬に蛸漁を終え、底曳漁をおこない、鯛を 150～380Kg 漁獲した。ヒラメ、ホウボウも漁獲された。

7. サヨリについて

大洗、久慈で操業し、30～160Kg 平均 60Kg 以上の漁獲量で安定した漁模様であった。下旬から 20～40Kg で低調に推移した。魚体は 60～80 g 中心で 100 g 以上は少なかった。（文中魚価の単位は円/Kg です。）

（JAFIC 銚子駐在所、文責漁海況部）